スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

福島県国見町

自 治 体 名 ： 福島県国見町
担 当 課 名 ： 教育総務課
電 話 番 号 ： 024-585-2119

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	37.95㎢
人口	7,935人
公立中学校数	1校
公立中学校生徒数	139人
部活動数 （運動部活動のみ）	9部活
地域クラブ活動数	1クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

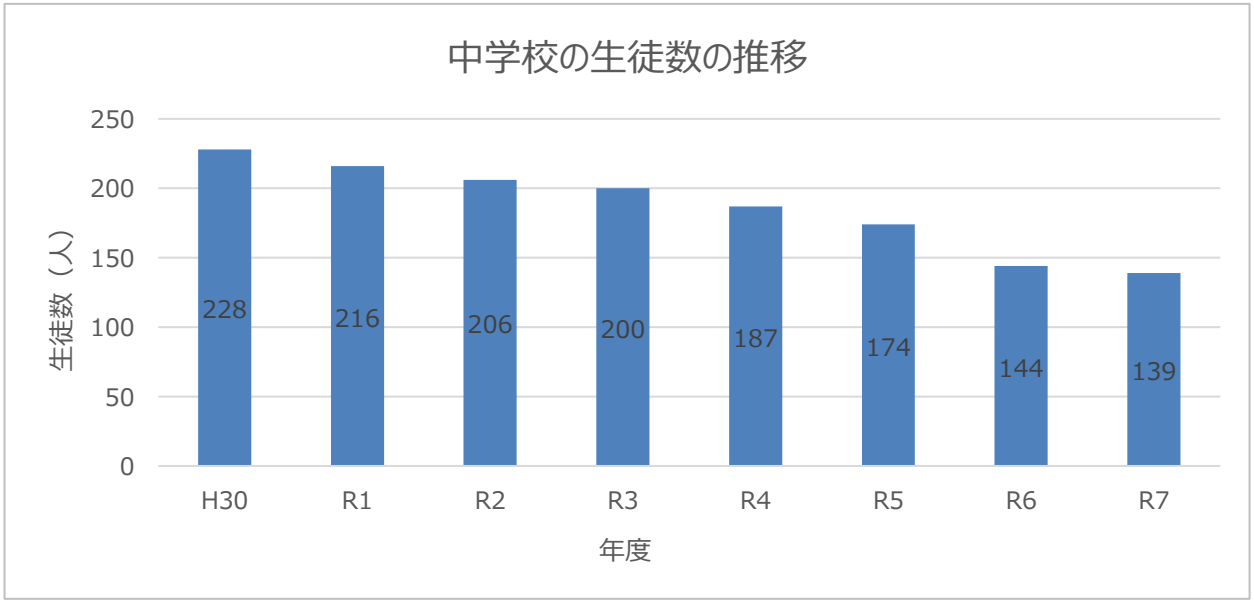
地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

町内の中学校は1校であり、139名の生徒が在籍している。中学校の運動部活動は現在、9つ（男女卓球、男女ソフトテニス、男女バスケットボール、男女バレーボール、特設陸上）あるが、生徒数の減少により部員数が少なく、単独での活動が今後厳しくなる部活が見込まれる。

部活動地域展開を支える団体として、「国見町コミュニティクラブ」を令和6年4月に設立した。今年度は男女卓球及び男女ソフトテニスについては、休日の活動について、国見町コミュニティクラブに登録した地域の指導者が参加している。しかし、その他の競技については、指導者の調整がつかず地域展開が進んでいない現状である。

また、部活動以外の活動として、もともと地域クラブとして活動していた野球チームも、国見町コミュニティクラブに登録し、中学生の活動を支えている。

ただし、人口減少の影響から、部活動・地域クラブ活動ともに、チーム構成が難しい状況や、指導者の確保が難しい現状もあり、町単独で地域クラブ活動を支えることには限界があると感じており、近隣市町村と連携した取組について喫緊の課題である。

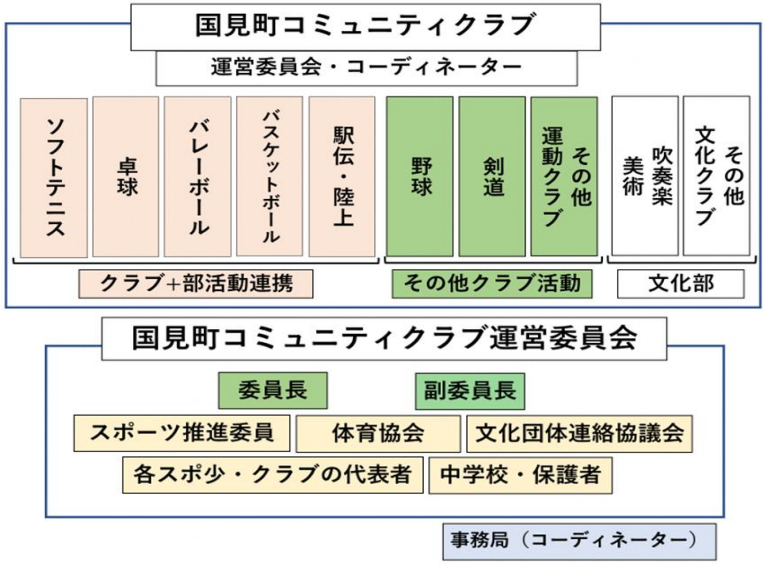


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会（教育総務課）

・国見町コミュニティクラブ運営委員会事務局

◉首長部局（総務課）

・予算措置

◉コーディネーター

・指導者との連絡調整

・国見町コミュニティクラブ運営委員会の運営事務

年間の事業スケジュール

令和7年4月	国見町コミュニティクラブ 第1回運営委員会 地域クラブ活動の実施
令和7年5月	研修（コンディショニングについて）
令和7年7月	研修（普通救命講習）
令和7年11月	研修（コーチングについて）
令和8年2月	国見町コミュニティクラブ 第2回運営委員会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		1クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		1クラブ（4部活動）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		1クラブ
全体の指導者数	23人	全体の運営スタッフ数	20人

②各地域クラブ活動に関すること

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
国見町コミュニティクラブ	任意団体	卓球 ソフトテニス 野球	・休日　月 1～4回	8:00～12:00 のうち3時間	1年16名 2年16名 3年19名	令和7年4月～令和8年2月	23人	20人	野球 年会費 10,000円 その他 負担なし	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●なし

2.実証内容と成果

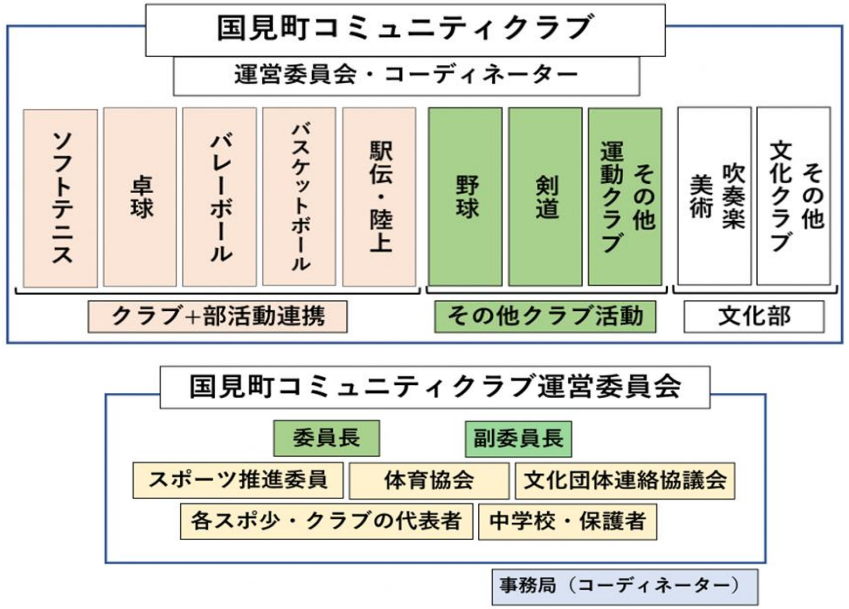
スポーツ庁

主な取組例

●国見町コミュニティクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球、ソフトテニス、野球
運営団体名	国見町コミュニティクラブ
期間と日数	卓球： 令和7年4月～令和8年2月、月4回程度 ソフトテニス： 令和7年6月～11月、月1回程度 野球： 令和7年4月～令和8年2月、月4回程度
指導者の主な属性	元教員、日本スポーツコーチングリーダー等
活動場所	柏葉体育館、上野台運動公園　等
主な移動手段	徒歩、自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	野球：10,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●運営委員会　20名

役割：コミュニティクラブの運営に関する協議を行う

●指導者　23名

役割：生徒への技術指導、生徒への練習メニューの立案、保護者との連絡調整を行う

●運営補助者（事務局）　2名

役割：運営委員会の開催及び指導者と中学校の連絡調整、会計業務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 令和6年度より、「国見町コミュニティクラブ」を設立し、部活動地域移行を進めている。コミュニティクラブ運営委員会や、研修会、指導者派遣を担うコーディネーターを配置予定であったが、未配置であるため、今後コーディネーター配置を進めたい。

取組の成果

- コーディネーターの配置について、令和7年11月から事務局内に1名配置することができた。コーディネーターには運動部の地域展開にかかわる業務を進めてもらい、コミュニティクラブ運営委員会や研修会の運営、運動部の指導者や学校との連絡調整等を行った。各団体の指導者や学校からはコーディネーターが配置されたため連携が取りやすくなるよう期待しているとの声があった。

今後の取組における課題

- コーディネーターを配置し、まずは学校部活動と地域クラブの現状を把握するため、顧問や指導者から活動での課題等について聞き取りをした。今後、地域クラブ活動を行っていくにあたり、各クラブが抱える課題（指導者の確保等）について対応していけるよう、コミュニティクラブ運営委員会、学校等関係機関とのさらなる連携が必要。

課題への対応方針

- 引き続きコーディネーターを配置し、指導者をはじめとする関係者との連携強化を図っていきたい。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- まずは現状を把握するために学校部活動及び地域クラブ活動を見学し、顧問や指導者に聞き取りを行った。
- 近隣自治体の状況について担当者へ聞き、現状を把握した。
- 事務局、学校と現在の課題や今後の方針について協議を重ねた。
- 新たな指導者確保のための人材発掘。
- 各競技団体の指導者との連絡調整。
- 会計書類の整理。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

- 指導者との連絡調整や意見交換を随時行った。初年度だったこともあり、基本的には対面や電話で行った。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

- 国見町コミュニティクラブ運営委員会の中で国見町コミュニティクラブ活動方針に定めた安全性確保や事故等の未然防止について、随時内容を確認し共有を図っている。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

- 国見町コミュニティクラブ活動方針に定めている通り、まずは事故等を未然に防止するための対応を指導者が把握しておく。また事故等が発生した場合は応急処置後、事務局等関係機関へ連絡する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 年次計画として、国見町コミュニティクラブ指導者及び指導予定者に向け、「救急救命」「スポーツ栄養」「スポーツ医学」「スポーツコーチング」等、指導者の資質向上に資する研修会を開催する。

取組の成果

- 指導者向け研修会として、今年度は3回の研修会を実施した。研修内容は、第1回目は「中学生のコンディショニングについて」、第2回目は「普通救命講習」、第3回目は「スポーツ栄養学について」というテーマで講師を招いて研修会を実施した。
- 「コンディショニングについて」の研修会ではウォーミングアップや練習後のストレッチについて実技を交えながら学んだ。今回の研修で学んだストレッチ等を実際の練習で取り入れている団体もあり、参考になったとの声があった。

今後の取組における課題

- 研修会実施にあたり、研修内容のテーマ設定が難しかった。また研修会で、テーマに沿った内容で講師を務めていただく人材を確保することにも時間を要したため、今後も課題になってくると考える。
- より多くの指導者に参加してもらえるような研修時期、時間帯等の検討。

課題への対応方針

- 福島県スポーツ協会の研修会への講師派遣事業等も活用しながら研修会を運営する。
- コミュニティクラブ運営委員会で研修時期や時間帯について協議の上、決定していく。

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

- 町内のスポーツ少年団等競技団体へ指導者の状況についてコーディネーターが聞き取りを行った。

指導者研修の内容

研修名	コンディショニングについて
講師	福島県アスレティックトレーナー
研修内容	• コンディショニングとは • 適切な水分補給方法について • けがをした場合の応急処置 • 傷害予防を目的としたコンディショニング • ベストパフォーマンスを生むウォーミングアップ • 練習後のストレッチ

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修受講者の声

●参加者の声

参加者①
「コンディショニング」に関する研修では、資料に基づいた座学に加え、ストレッチングの実践や、講師のこれまでの経験に基づく具体的な講話をいただけて、大変有意義だった。実際の練習でも取り入れていきたい。

参加者②
「普通救命講習」ではAEDの使い方や心肺蘇生の方法等、人命救助に必要な知識や技術を学ぶことができた。

参加者③
「スポーツと栄養」についての研修会では、試合の日に摂るべき栄養素や食事メニュー具体例等について学ぶことができた。
普段の食生活から栄養素や摂取エネルギーを意識していきたい。

指導者の資格取得促進に向けた取組

指導者総数	23人
資格所持指導者数	9人
本年度資格を取得した指導者	0人

平日・休日の一貫指導に関する取組

- テニス部においては平日は顧問と外部コーチが指導しており、休日は地域の指導者が地域クラブ活動として指導にあたっている。平日と休日の指導者が同じソフトテニススポ少に所属しているため、連携しながら指導にあたっている。
- 卓球部においては平日は部活動指導員、休日は地域の指導者が地域クラブの指導者として指導にあたっている。平日と休日の指導者が同じ卓球クラブに所属しているため、クラブ内で連携しながら指導にあたっている。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- これまで同様、国見町コミュニティクラブ運営委員会において、関係機関と連携して取組を進めていく。

今後の取組における課題

- 国見町コミュニティクラブ運営委員会において、部活動の地域展開の進め方等を協議しているが、運営委員会に協力いただいている各競技団体でも、競技人口の減少や指導者の確保に難航している。

取組の成果

- 町内の競技団体より国見町コミュニティクラブへ団体登録があり、男女卓球部、男女ソフトテニス部へ地域指導者を派遣することができた。また、野球部についても町内競技団体の団体登録があり、中学生が参加する地域クラブ活動として実施することができた。
- 既存の学校部活動である男女バレーボール部、男女バスケットボール部については指導者の確保ができず、指導者派遣ができなかった。

課題への対応方針

- 国見町コミュニティクラブ運営委員会において、関係機関と連携し、まずは指導者確保に力を入れて取組んでいきたい。特に地域クラブとして活動が開始できなかったバレーボール、バスケットボールについて指導者を確保したい。併せて、近隣自治体との連携も検討していきたい。

関係団体等との連携に関するスポーツ推進委員の取組

- 国見町コミュニティクラブ運営委員会の構成員としてスポーツ推進委員の代表者にも運営委員会に参加いただいている。運営委員会では、スポーツ推進委員の立場から意見をいただいたり、町内の競技団体の状況等について情報提供いただいている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

- 町単独での活動では、競技種目、指導者確保等の観点から難しい部分も予想されるため、今後、広域的な協議が進められることを希望している。

今後の取組における課題

- 急速な少子化の影響により各クラブの競技人口の確保が今後難しくなり、地域クラブ活動に支障をきたす恐れがある。また同様に指導者の確保についても難しい現状にあるため、近隣の自治体等との広域的な取組が必要。

取組の成果

- 近隣自治体と部活動地域展開の現状について意見交換する場を持った。

課題への対応方針

- 広域的な取組については関係機関のあいだで具体的な議論ができていないため、近隣自治体等と情報共有しながら協議を進めていきたい。

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 国見町コミュニティクラブ運営委員会において、子どもたちの地域活動としてより充実した内容となるよう協議を進める。

今後の取組における課題

- 地域クラブとして活動できていない競技の指導者確保。
- 生徒のニーズに応じたスポーツ活動の場の提供。

取組の成果

- 学校部活動である男女バレーボール部及び男女バスケットボール部について、指導者が確保できず、休日の活動について地域クラブとして活動することができなかった。指導者確保を優先して取組んできたため、内容の充実を目指すところまでには至らなかった。

課題への対応方針

- 当面は、学校部活動の地域展開を進めるため、指導者確保に引き続き取組む。その後の課題として、将来的に子どもたちのやりたい活動につながるニーズ調査を実施する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- 国見町コミュニティクラブの運営費は、町からの補助金ですべて賄っている。

取組の成果

- 今年度については国見町コミュニティクラブとしては参加者から費用負担を求めなかった。

今後の取組における課題

- 今年度については参加者から費用負担を求めず、町からの補助金を活用し活動した。今後、継続的に活動していくためにも費用の一部について受益者負担金を徴収する必要があると考えている。金額については国見町コミュニティクラブ運営委員会内で協議し、負担が大きくならないように決定していきたい。

課題への対応方針

- 受益者負担金の徴収については国見町コミュニティクラブ運営委員会内で今後協議し決定していきたい。

収支バランス

- 今年度は町からの補助金を財源に地域クラブ活動に取組んだ。支出の内訳は地域クラブ活動費として指導者謝金、消耗品の購入、大会参加料等。事務局運営費としては、コーディネーターの報償及び交通費である。なお、今年度は受益者負担金の徴収は行わずに運営した。
- 今後、継続的に活動していくためにも費用の一部について受益者負担金を徴収する必要があると考えている。金額については国見町コミュニティクラブ運営委員会内で協議し、負担が大きくならないように決定していきたい。

●収入

項目	費用	割合
公費	740,208	100%
事務局運営費	0	0%
合計	740,208	—

●支出

項目		費用	割合
地域クラブ活動費		519,836	70.2%
	諸謝金（指導者）	385,770	52.1%
	会場使用料	0	0%
	消耗品費	43,996	—
	印刷製本費	0	—
	携帯電話レンタル料	0	—
	雑役務	90,070	—
	生徒保険料	0	—
	指導者保険料	0	—
事務局運営費		220,372	29.8%
	謝金	219,040	—
	会場使用料	0	—
	スポーツ教室開催費	0	—
	保険料	0	—
	人件費	0	—
	交通費	1,332	—
	印刷製本費	0	—
	消耗品費	0	—
	備品購入	0	—
	通信運搬費	0	—
	修繕料	0	—
	振込手数料	0	—
	一般管理費	0	—
	消費税相当額	0	—
合計		740,208	—

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組の成果

- 学校部活動のある競技については、部活動で使用している学校施設、町体育施設に地域の指導者が出向き指導を行った。そのため休日も平日と同じ環境で活動することができた。
- 地域クラブ活動（野球）についても、活動日・活動内容により、学校施設、町体育施設を利用して活動した。

今後の取組における課題

- 学校施設（体育館）を使用する場合、事前に学校から鍵を借り、返却する手間が毎回発生している。
- 学校施設及び町体育施設の体育館を使用する場合、冷暖房の使用について一定のルールづくりが必要。

課題への対応方針

- 学校施設の鍵の管理、体育館の冷暖房の使用等について、教育委員会、学校、国見町コミュニティクラブ運営委員会が協議した上で学校施設の利用マニュアルを整備し、関係者間で共有を図っていく。

学校施設利用上の負担軽減に向けた取組

- 学校体育館の鍵の返却はキーボックスにより行っている。

用具使用・管理等における取組

- 卓球部においては学校備品である卓球台等を地域クラブ活動の際も利用している。使用や管理に関しては平日の部活動の時と同様に部員内で管理している。今後、修繕や更新等が発生した場合の費用負担等については規程による整理が必要。規程については、国見町コミュニティクラブ運営委員会で検討していく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 令和6年度に部活動地域展開の受け皿となる「国見町コミュニティクラブ」を立ち上げ、2年目の活動となった。今年度は学校部活動の男女卓球部、男女ソフトテニス部、学校部活動ではないが野球競技について地域クラブとして休日の活動に取組んだ。
- 年度途中からではあったが、コーディネーターを配置し、各競技団体の指導者との連携強化を図ることができた。
- 学校部活動である男女バレーボール部と男女バスケットボール部については、コーディネーターや運営委員の協力を得ながら、指導者確保に取組んでいたが、適任者が見つからず、地域クラブとして活動するまでには至らなかった。
- 地域クラブとして活動している卓球やソフトテニスに関しても現在指導者は確保できているが、指導者の高齢化や休日も仕事がある指導者が多く、指導日の日程調整が難しい等指導者確保の面では課題が残る。

●成果の評価

- 昨年度から課題となっていたコーディネーターの配置について、年度途中からではあったが1名配置し、各競技団体指導者と連絡を取り合い、意見交換等をしながら、信頼関係の構築に努めている。事務局職員がコーディネーター業務を行っていた昨年度よりも指導者と事務局の連携が強化されたと感じる。
- 学校部活動の男女卓球部、男女ソフトテニス部、学校部活動ではないが野球競技について地域クラブとして休日の活動に取組んだ。地域クラブとして活動までに至らなかった男女バレーボール部と男女バスケットボール部の指導者の確保については継続して取組んでいきたい。

●今後に向けて

- 地域クラブとして活動に至っていない競技の指導者の確保。
- 部活動地域展開の現状について広報やホームページを活用し、町民に広く周知する。
- 地域クラブが学校施設を利用して活動する場合、学校施設の利用や管理に関するマニュアルを整備するための協議。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

参考資料



【国見町コミュニティクラブ運営委員会】



【研修会（コンディショニングについて）】



【地域指導者との活動（卓球）】



【地域指導者との活動（野球）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和4年	令和5年			令和6年	令和7年
部活動地域移行検討委員会設置	部活動地域移行推進協議会設置	国見町コミュニティクラブ設置検討、活動方針策定	生徒、保護者への説明	国見町コミュニティクラブ設立・運動部活動への地域指導者派遣、地域クラブ活動の実施	運動部活動への地域指導者派遣、地域クラブ活動の実施

●ステークホルダー

学校、町文化団体連絡協議会、体育協会、スポーツ推進員、競技団体、生徒、保護者、事務局（教育委員会）、町部局

●経過

令和6年度に部活動地域移行の受け皿となる「国見町コミュニティクラブ」を設立した。

●実施にあたって生じた課題

・ 指導者の確保

●実施内容、工夫した点 等

・ 「国見町コミュニティクラブ」設立時に「部活動地域移行を考える」という演題で、仙台大学体育学部　川戸湧也先生を講師に記念講演会を開催した。

・ 令和6年度は初年度の取組であったため、運動部活動の地域移行を軸に活動を進めた。

・ 中学校部活動競技に地域指導者が参加する場合には、事前に顔合わせ会を行い、生徒・保護者の不安を軽減できるよう取組を進めた。

●ステークホルダー

国見町コミュニティクラブ（学校、競技団体）、生徒、保護者、事務局（教育委員会）

●経過

令和7年度は令和6年度に引き続き、休日の部活動について指導者派遣等を行い、地域クラブとして活動した。

●実施にあたって生じた課題

・ 指導者の確保

・ 活動場所として学校を使用した時の学校や鍵の管理

・ 指導者謝金等財源の確保、受益者負担の検討

●実施内容、工夫した点 等

・ 男女卓球部、男女ソフトテニス部、野球競技が地域クラブとして休日の活動を行った。

・ 国見町コミュニティクラブ運営委員会の中で地域クラブの活動状況について、他の競技団体へも報告をしてもらい、課題等について運営委員会内で共有した。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	令和８年度	令和９年度	令和10年度	備考
町	指導者研修会の実施 関係機関との調整			・広域連携に向けた協議
中学校	平日の部活動の実施 学校施設の管理（地域クラブ活動で学校を使用する場合の貸し出し）			
国見町コミュニティクラブ	運営委員会の開催（年４回程度） 指導者の確保 関係機関との調整			・令和10年度からはすべての休日の部活動を地域で行うことを目標とする。
競技団体・指導者	地域クラブ活動への指導者の派遣・地域クラブ活動の実施			